

宮城県立がんセンター(名取市)と仙台赤十字病院(仙台市太白区)、東北労災病院(青葉区)と県立精神医療センター(名取市)という県内4病院の再編問題が注目されています。

10月の知事選でも争点になりました。現職の村井嘉浩氏が名取市と亶谷市へ、2病院ずつ統合し新設することを選挙公約としました。選挙告示直前に宮城県保険医協会が実施した立候補予定者アンケートで、統合・移転構想の撤回を求める問いに対し村井氏は、こう回答しました。「4病院とも課題を抱えており、今後の地域医療を担うため真剣に協議することに合意したものです」。公約は先走り過ぎと言っほありません。

◆ ◆
関心は、どこに新設されるのかに向きがちです。しかし、この構想の無視できないポイントは、二つの病院がつぶれるということにあります。10月28日の河北新報朝刊が報じたように、移転が危ぶまれる仙台市内2病院がある地域の住民は不安を募らせています。

◆ ◆
2019年9月に国は、再編・統合の必要性について特に議論が必要な全国の公立・公的424病院(県内19病院)を公表しました。その後、新型コロナウイルス感染症が拡大し医療崩壊さえ心配される事態となり、病院統合やベッド減らしの計画は根本から見直しが求められています。その議論も進



宮城県保険医協会理事長

井上 博之

(75歳・宮城県松島町)

4病院再編

県民への情報開示望む

◆ ◆ ◆
まない中での知事の「英断」には、首をかじげざるを得ません。

◆ ◆ ◆
統合・移転構想は昨年8月に公表されました。その端緒は、19年1月に設置された有識者による「県立がんセンターあり方検討会議」が同年12月にまとめた最終報告です。経営の難しさなどから、他の医療機関との連携や統合を検討すべきだと結論付けました。

◆ ◆ ◆
保険医協会は今年1月、その議事録の開示を求めました。県ホームページにあるのは初回だけで、第2回から第5回までが未掲載だからです。コロナ下を理由に半年待たされた部分開示文書を見て驚きました。127ページに及ぶ議事録コピーはほとんど全面黒塗り。出席者名すら消されていました。

◆ ◆ ◆
「公開すると構成員が発言を控えてしまうなど、自由で率直な意見交換を行うことが困難になり、将来の同種の事務事業の円滑な執行に支障が生じる」。これが開示しない理由です。保険医協会は情報公開条例に基づいて不服の審査請求をしています。

◆ ◆ ◆
それにしても、県立病院のことなのに県民にオープンにできないということではないのでしょうか。施行後22年がたつ情報公開条例がないがしろにされているのではないかと感じました。第1条の目的は「県民の知る権利を尊重」「県政運営の透明性の一層の向上」「県民による県政の監視と参加の充実を推進」などをうたっています。知事、県担当者にはこの条文をしっかりと読み直してもらいたいです。

◆ ◆ ◆
必要な情報はオープンにしてください。今後、長期にわたる地域医療を左右する問題です。少なくとも県民、地域住民のニーズの把握に努めて、いったん立ち止まって考えてほしいものです。